

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

ロータリーは機会の扉を開く

Rotary Opens Opportunities

RI会長 ホルガー・クナーク



2020~2021

ロータリーは地域とともに

富津中央RC会長 渡辺 務

国際ロータリー 第2790地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2621 第6回例会 2020.9.10 晴時々雨

点 鐘 : 渡辺 務 会長

進 行 : 玉井百合子 SAA

ソング : 我らの生業

機関の大きな役割となっていて、防災対策担当の職員の仕事や負担が大変多くなりつつあります。

もちろん防災のためには予算を付けてお金の配分をすることも重要となってきますが

いざというときにお金がなければ、様々な対策も打てません。そこで少し財政のお話をさせていただきます。

先日、東洋経済社で市町村の「財政健全度ランキング」が発表されました。

袖ヶ浦や君津、木更津が上位200都市の中に名を連ねていますが、残念ながら富津市はランク外ということでした。このランキングに一喜一憂することはないと思いますが、様々な指標を用いて客観的にそのまちの財政を評価するのは必要なことで、それを知ることにより自分たちのまちが今どこにあるのかを知るきっかけになると思います。

そのデータを見ると富津市は税財源については大企業の固定資産税や法人市民税などである程度のアドバンテージがありますが、一方で基盤整備の遅れや域内の経済構造(地域内経済循環)の脆弱さなどで財政の安定度に課題があると考えられます。

「地方創生」という言葉が使われて久しいのですが、どうも地域の活性化はもっと根本的な社会の変革、(例:国の行政機関の地方移転:テレワークなど仕事のやり方の根本的な変化)などが必要で、そこへの資源の集中を急ぐべきだと考えています。

会長挨拶

渡辺 務 会長



皆さんこんにちは。

先週末、台風9・10号が沖縄・九州地方に接近するというので、しきりに注意を呼び掛けるニュースや自治体の情報が報道されていました。

富津市のみならず、今や日本中で「防災対策」が重要なキーワードになっています。

事前の備えということで、要援護者など社会的に弱い立場にある方々や災害の危険のある場所の対応、避難所やそこに備える備品の準備。そして実際に避難をしなければいけなくなった時の職員や近隣住民の協力体制の確立など「災害対応」が行政

〒293-0043 富津市岩瀬 841-3
いち川旅館
Ichikawa ryokan
841-3 Iwase Futtsu-shi Chiba-ken,
293-0043
Tel. 0439-65-0177 Fax. 0439-65-0178
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>



前年度からの例会休止や行事の中止によりクラブの会費が例年より少し多めになっています。何か有効に使うことができればと考えています。皆さんにアイデアを伺えればと思います。理事会の中では「寄付」はいかがか？という意見が多かったと思います。何か単独の事業やイベントなどで会員・家族や地域に還元できればと思います。アイデアがある方は個別に私にご連絡いただければと思います。よろしくお願いいたします。

先週の例会で当クラブの高島会員と千葉元会員の叙勲のお話をさせていただきました。祝賀会のようなものをしてお祝いを差し上げたいと思います。クラブ親睦委員の皆さんにご協力をいただいで開催しようと思いますので皆さんご承知おきください。

幹事報告

栗原典子 幹事



1. 第2790地区三委員会合同セミナー開催案内回覧
2. 米山奨学生卓話募集の案内回覧
3. 第1地域 PRFC 便り9月号回覧
4. 東京米山 RC2790医療物資支援プロジェクト第2弾案内回覧
5. 梶原ガバナーエレクト事務所より、活動計画書送付のお礼受領回覧
6. 10月1日(木)夜間月見例会、句会のお題は「秋」「月」を入れればなお良し。点鐘18時、出欠案内回覧。参加費は5,000円、9/17締切り

誕生祝



鎌田良子 S35. 9, 30

誕生祝一言

鎌田良子 会員

皆さんこんにちは!!

今日は皆さんにお誕生日のお祝いと素敵なプレゼントを頂き本当にありがとうございました。

9月30日で還暦になります。今まで大病もなく丈夫な身体に産んで頂いた両親に感謝いたします。

今年は皆さんに「おめでとう」と言われることに素直に感謝して心優しい1年を過ごして行きたいと思います。

仕事面では新しい形を覚えて行かなくてはならないのですが、とにかく健康第一をモットーに元気に仕事に遊びに頑張っていきたいと思います。

本日はありがとうございました。

卓話 ウォシュレット雑観

相川恵津子 会員



皆さんこんにちは。

叙勲されたり、本を出版されたりする方の前で何を話してよいのか凄く悩みましたが、石渡鋼会員の

下手な人はそれなりにという言葉聞いてほっとしました。

弊社の仕事は鉄工と書いてありますが、現在は高橋裕之会員と同じ水道工事が主体となっております。水道の本管工事や一般家庭での水回りの仕事をさせていただいております。その中で主力の一つでもあるウォシュレットについてお話をさせていただきます。

最近のトイレがきれいになっていると思いませんか？

高速道路のサービスエリアやデパート、レストランのトイレが様変わりしているのはウォシュレットの影響が大きいといっても過言ではないと思います。しゃがむのは大変だけど冷たい便座に座るのは嫌だと思う。そこに暖房便座の登場です。

ウォシュレットとは温水洗浄便座のことです。TOTOが登録商標しております。ほかの会社はシャワートイレというところが多いと思います。

戦後トイレの水洗化が進みましたが、当初は和便がほとんどでした。20年ぐらい前だったと思いますが、東京湾アクアラインの海ほたるで便器の洋風化調査のお手伝いをしました。

高齢化も始まり賛成の意見が多数でしたが、女性の方は2割くらいだったと思いますが、誰が座ったかわからない後に座るのは嫌だと反対する方もいらっしやいました。ご自宅は洋式に賛成でしたが。

温水洗浄便座は1964年アメリカから東洋陶器が輸入し販売を開始しました。高度成長期に入るとトイレの水洗化が目覚ましくなりました。

日本では1980年に初めてウォシュレットが発売され、1982年には「お尻だって洗ってほしい」というキャッチコピーで一躍有名になりました。テレビで便器の宣伝ということでずいぶん話題になったことを覚えております。ちなみにレッツウォッシュから付けたいらしいです。

それから次々と色々な機種が発売され、1998年には1,000万台突破しました。機能もノズル洗浄、水量調節、ビデ機能、乾燥機能消臭、脱臭、芳香等追加されてきました。7年後の2005年には2,000万台、昨年の2019年には5,000万台と順調に伸

びております。弊社でも年間15台以上取付けております。

現在普及率は80%を超えているとみられています。

お湯は38℃、便座は36℃、角度は43℃というのが黄金比率だそうです。

ウォシュレットは清潔な日本の象徴として外国人にも人気で、近年は中国人の爆買の対象ともなっているそうです。

卓話 私の野球への挑戦

林 雅彦 会員



昨日まで夏休みをいただきまして、また次男がコロナ休暇の関係でGoToトラベルの恩恵35%割引は大きいので、それを利用して京都の天橋立の旅館に宿泊して京料理とお酒を楽しんできました。片道700キロはかなりきつかったのですが旅館のコロナ対策や消毒体制も完璧で企業努力を実感できました。

さて前回の卓話では私の信用金庫ヒストリー(私に影響力のあった3人の支店長)というテーマで卓話をさせていただいたのですが、今回は旅行からの帰宅道中に考えた内容をお伝えしたいと思いますのでご了承ください。

現在私は56歳ですが、野球歴については40歳から始めて16年となっています。私はもともと野球経験者ではなく地元の子供会の少年野球大会に参加していたぐらいで、中学、高校、大学と「軟式庭球部で活躍?したかどうかは別として一応、中学で

は木更津市内大会3位、高校では関東大会、インターハイ予選まで進んだ経験があり、大学選手権では当時2部リーグで2年次には個人大会優勝をした経験があります。(自慢ですけど)

「それではなんで今、なんで野球をやっているの?」と問われると、話が長くなります。

草野球組織は木更津市野球連盟とクラブチームで構成されており、少年野球、成年1部2部3部(50チーム近く)、壮年マスターズ(8チーム)で構成され、高野連等の野球組織とも繋がっております。

勝ち上がれば県大会、高円宮杯、天皇杯、企業野球部との対戦もあります。(夢の話ですけど)

それでなんで50歳過ぎても野球やっているの?とのお答えですが、自分の子供の少年野球のお手伝いで顔を出したことがきっかけでした。

長男が小学校3年生になったのを契機に近くの友達に誘われて入部したのがきっかけです。

続いて2年生の次男も入部、それからはずっと休日は野球中心の家庭生活となってしまいました。

入団当時は青少年相談員が監督コーチを務めてくださっていた高柳小学校野球部で部員50名程の緩い野球チームで大会登録もしていないチームでした。

そのうち、青少年相談員では面倒が見切れなくなり、父兄に手伝いを求められようになりました。

その後青少年相談員の都合で廃部の動きができたところで、「この子たちをどうするか?」と父兄で思案し、相談員が監督を引き受けてくださる方を引っ張ってきて、正式なクラブチームとして出発するにあたり手探りで右往左往いたしました。

クラブチームにするには色々制約があり少年野球の指導員講習(当時は成田高校へ行き、2日間、各高校野球部の監督やプロ野球経験者を講師として講義、実技がありました。)それを受講してライセンス取得した者が、数名いなければならないことや、公式審判員の登録の為の講習参加や父兄代表、

小学校との連携等かなりハードルが高かったのですが、まずは公式戦1勝を目標に弱小チームの誕生となりました。

その後、木更津市野球連盟に正式登録をする運びとなり、それまで練習手伝いをしていた私も正式なコーチとして登録され毎週末は本格練習や試合をすることになりました。

監督は今の木更津総合(当時中央)高校野球部出身で子供の心を掴む指導力と技術は目を見張るものがありました。また他の父兄の中でも昔の腕自慢が多く練習に参加しており、私も自身の子供に手ほどきをしていました。

そうこうしているうちに自分自身の野球技術進化に気づき、面白いように野球の奥深さにはまってしまいました。

今考えると親は良かれと思っていましたが、毎週土日、祝日は家とグラウンドへの往復ばかりでどこへも連れていくこともなく、かわいそうなことをしたなと思います。

それだけ野球というスポーツはレギュラーともなると練習の際も休むと他のメンバーに迷惑がかかるこの思いで体調が悪くとも、また多少骨折していても練習へは参加するのが原則でした。なにしろアシストという言葉は野球にはなく、犠牲バント、犠打という言葉は野球以外には適応されていないことから、自信を犠牲にしてもチームワークを重んじる競技を子供たちに教えるのは大変でした。

それだけ練習しても6年生になっても試合に出られない子も多く、父兄からの苦情も多く、自分の子がレギュラーともなるとコーチの子が優遇されているのでは、との陰口を言われたこと多々ありました。

今の親たちでは、たぶん厳しい練習を見るのも耐えられないにではと思うぐらいです。

他の父兄に文句を言わせないためには自分の子にはかなり厳しく接していたのを覚えています。

今でも、当時のことを大人になった子供たちに苦言を言われるぐらいです。

発足後8年を経た頃、学年ごとに大会を開催して、すぐに試合に出られるサッカー部への希望者が多くなるのは、親の考えとして必然であり、野球は衰退の一途となり全部員でも試合に出られない状態となり、合併、廃部となってしまいました。

これは木更津市だけでなく他の市も同様、親の考え方の変化や少子化問題が影響しているものと思われます。

現在、私が野球を続けられるのは40歳からの48歳までの8年間まったく休日という休日はなく体を動かしていたおかげで8月の炎天下でも試合が、できる体力が残っているのではと自負しております。

当時、仕事で疲れていても、土日休日出勤をしないよう意地でも残業して終わらせていましたし、疲れていてもユニフォームを着ると気持ちがシャンとしたのは不思議でした。それほど少年野球が生活の中心だったように思われます。その時に培われた体力で今も野球ができるのは、毎週子供たちと体を動かしていたおかげで、今考えれば子供たちに元気と勇気をもたらしていたんですね。

自分の子供たちはとうに野球から離れ、現在社会人となっていますが、逆に私の野球の練習には付き合ってもらうことがあり多々感謝しております。

のちに、うちの子供を誘ってくれた子は5年生の時にエースとして身長170センチ近く体重も60キロ以上はあったと思う。「木更津市に怪童あり。」と轟くような子に成長しその子がランドセルを背負って通学している姿に違和感を持ったものです。

少年野球の中でひとり大人が混じっているようであり、少年野球ではピッチャーズマウンドからの距離が大人より2メートル以上近い16メートルですからそれは反則級でした。それだけのピッチャーがいるにはそれを受ける捕手も必要でこれが難儀しました。

結局はうちの長男を犠牲にしましたが、お互い通ずるところでうまくバッテリーとして席卷し、当時の球速も「110キロはでているのでは?」と電車で通勤し

ている際に他の人からのうわさ話しに耳をそばたて、「それうちのチームの子だよ」って心の中で自慢していました。それからすっかり野球というより少年野球に魅了され、のちにその子が千葉県代表選抜選手として千葉ロッテマリーンズジュニアの大会に出場する選手になりました。

そんな中、出馬票ではまったくの無名チームあったうちがミラクルを起こすことがあってその快感が忘れられない年間の中で1回あるかないかの試合がある。他の大人たちがかたずを飲んで見る試合が起こるんです。失策なし 0-0 が最終回まで続き、普段ではできない子がタイムリーヒットを打って勝つなんてことが。誰でもヒーローになれる、また残酷な場面も多くあり、必ず出番くるスポーツだからこそその醍醐味が野球の魅力でした。

それが段々と大人のエゴに繋がっていく。勝負にこだわりすぎて子供の教育という観点からは外れてしまっていたのに気づかなくなってしまうんです。今思い出すと恥ずかしい限りです。

話は戻りますが、現在、私は 2 チームで草野球大会に出場しておりますが、年齢制限なしの春、夏、秋期大会と 40 歳以上のマスターズ選手権の 2 チームに所属しております。たまに雨天延期やコロナ関連で日程が押してしまい、当日 2 試合なんてこともあり、猛暑の中へろへろになってしまうこともあります。

少年野球時代にできた監督コーチ父兄仲間は現在もいいお付き合いをさせてもらっており、壮年(マスターズ 40 歳以上)選手権に出場しているのは、その当時の岩根地区の仲間で構成されております。

当時の子供たちが高校野球も終えみんな暇になってしまったんでしょう。いつも集まる蕎麦屋で飲んでいた際に、今度はみんなで野球を楽しまないかということでその場で有志を集いチーム結成、翌週にはユニフォームデザインを決めスポーツメーカーを呼び、寸法合わせを行いチーム登録まで済ませました。それから 6 年以上が経ち、皆すでに 50 歳以上で 60 歳近くになっている方もいますが、毎年の

大会のために毎週日曜日に都合の良いひとだけで集まり練習に励んでおります。

ただ年ごとに退化が進み、打てない、走れない、守れない、の三拍子で笑いが絶えませんが、練習しないとすぐにマイナスからのスタートになってしまいみんなで体は少しでも動かすように心がけています。

もうひとつのチームについては、現在 2 部リーグで当時の少年野球の教え子たちが大学生、社会人になって、その子たちに混じって一緒に野球をやらせてもらっています。

まだ 21 歳から 28 歳までの中でおっさん 5 名くらいが奮闘しており、こちらも楽しいです。結構、おっさんたちの方が活躍したりして、バランスがとれた良いチームです。

グラウンドの中では年齢、肩書関係なくみんなボール繋がりで楽しめるのは私のストレス解消法で、また、試合後のお疲れ様会も楽しみのひとつで一球、一打で野球の時間より飲んで、騒いでいる方の時間が長くなってしまい、次の日後悔することが多く、カミさんにいつも、「いい加減にしなさい」と怒られることもしばしばです。

ただ 40 歳すぎてからの友人というのはいいもので、仕事以外の話題やみんな色んな悩みの共有できるのは、すばらしく、頼りになります。

大佐和支店に来て 2 年以上が経ちましたが、この富津中央 RC のメンバーとしても 2 年以上のおつきあいとなり、今では、この富津地区においても、いい仲間ができて、たまに行事が重なると、どちらを優先したらよいかわからなくなることも多く、悩みの種が増えました。(特に岡田会員との日本舞踊の稽古や披露の際は、野球の動きなのか踊りだかわからなくなってしまうことも多々ありました。)

でもこれもいい意味での悩みですので何かあれば、またお誘いいただければ検討の上参加いたしますので、よろしくお願ひします。

ニコニコ BOX

岡田良弘 親睦担当



渡辺 務 台風被害 1 周年を記念して

*鎌田良子 お誕生日をお祝いして頂き有難うございました。

相川恵津子 卓話をさせていただいて。

林 雅彦 私のくだらない卓話にお付き合い頂き有難うございました。

神子 恒 お久しぶりです。

椎熊邦広 //

*玉井百合子 前回お休みしてすみませんでした。今日は皆さんにお目にかかれてうれしいです。

*白石 廣 元千葉一利会員の叙勲をお祝いして。妻が退院して家に戻りましたが、まだまだ離せません。今日はお休みします。

*>1,000円 合計 11,000円

出席報告

須藤 隆 出席担当

区分	会員数	出席	欠席	MUp	出席率
今回	36/34	22	12		64.71%
前回	36/33	21	12		63.64%
前々回	36/36	27	9		75.00%